



ミニトマト  
(花組畑)

# つな が り

自ら動き、感じ、楽しむ ~笑顔あふれる幼稚園~  
~やさしく かしく たくましく~

第 5 号

令和4年7月12日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園

副園長 大森 洋子

## 「言葉」を育てる ~気持ちに寄り添いながら~

この秋に教育実習生として入ってくる学生(3年生)たちが、その前段階として、3回ほど保育に参加しました。朝の準備から保育後の環境整備まで一日参加し、ミーティングではその日の保育について担任と一緒に振り返ります。そのミーティングで学生が次のようなことを話していました。

「Aちゃんが持っていた剣をBちゃんに向かって振り回していた。エスカレートしてケンカになりそうだったので危ないと思って止めた。様子から見て、一緒に遊びたいんだなと思ったけれども、どう声をかけていいかわからなかった。相手にかかわろうとする気持ちをもって、もう少しなんだけどなあと思った。」それを聞いて、担任は、「言葉でお互いの気持ちをつなげてあげることが大切かなあ。『遊びたいんだよ』とか、『急に向かってきたらびっくりするよねえ』、『一緒に遊ぼうって誘ったらいいよ』、『遊ぼうって言ってくれたら分かるよねえ?』とか・・・」と話していました。

保育者は、『子どもの行動には必ず理由がある』ということ、学生時代からずっと考え、学び続けています。ああかもしれない、こうかもしれないと状況から想像しながら理由を探り、子どもたちがよりふさわしい行動ができるように導くことを問い続けているのです。若い学生さんの言葉を聞きながら、「いいところに気付いているぞ〜、頑張れ〜」と心の中で応援していました。



花組に行くと、よく無言でドレスを渡されたり、ポンと目の前にままごとのごちそうを置かれたりします。「ドレス着せてほしいの?『着せて』って言ってくれたらよく分かるよ」と言いながら着せてあげたり、「おいそうですね。『どうぞ食べてください』ってことかな?」と言いながら食べたりしています。子どもの気持ちに寄り添い、応じながら、ふさわしい言葉を添えることで、言葉を育てていきたいと思っています。

「言ってくれたら分かるのに」と思うことは、日常生活ではよくあることだと思います。年齢が低い人ほどそうでしょう。「言葉にする」って難しいんですよね。そう考えると、「だって〜」と理由が言えることは素晴らしいことだと思います。もちろん理由があれば良いのではなく、その理由から「どうすればいいか」を一緒に考えることが大切ですが、まずは、子どもの行動の「もと」となった気持ちや思いをしっかり理解することが大切だと思います。

子どもの行動の「もと」となるものは、年齢が低いときは、〇〇がほしい、△△してほしいなど、「物」や「できごと」に関する思いや要求が多いです。年連があがるにつれ、子どもの思いは複雑になり、そこに「人」も入ってくるようになります。「〇ちゃんと同じ剣が作りたいけど作り方がわからない」「△ちゃんに『ダメ』って言われて悲しかった」「◇ちゃんの遊び方が自分と違って困っている」等々です。こういう出来事に出会うたびに、子どもたちは考え、葛藤し、行動を起こします。その行動がふさわしいものでなかったとき、理由を尋ねて、「教えて」「どうして?」「\*\*の方法はどう?」等の言葉で言えるように導いていくのです。

ところで、「貸してほしいときには『貸して』と言う」ことは、実は、どの子どももみんな知っています。知ってはいるけれどもいざとなったら言えなかったり、言っても貸してもらえなかったりするのが人間の世界です。そこに「相手」や「気持ち」が存在するからです。『貸して』と言えばいいのではなく、『貸して』と言うと貸してもらえることもあり、「なんでも『貸して』もらえる訳ではない」、のですよね。子どもたちは、日々経験を重ねながらこんなことを学んでいるのだと思います。成長を温かく見守ってください。

**避難訓練(7/8)**: 不審者の侵入を想定した訓練を実施しました。園内に不審者が侵入したとき、職員はマニュアルに「従って行動し、携行している笛を吹いて園児や職員に知らせる(できる場合は放送もする)ことにしています。今回、園児には、「笛の音が聞こえたらとにかく部屋に戻る・集まる」ということを知らせ、行動できるように訓練しました。どの子どもも真剣に話を聞いていて、こういうときに「いつもとは違う」と察して、きちんとできるということはとても素晴らしい力だなと思いました。

保育室に集まった後は、遊戯室に集まり、「とにかく先生たちはみんなを守るからね」と話したところです。

園内では保育者の指示に従うことが大切ですが、園外で自分の身を守るには、「**いかのおすし**」の5つの約束が重要です。知らない人について**いか**ない、知らない人の車に**の**らない、危険を感じたら**お**おごえをだす、その場から**す**ぐ逃げる、大人に**し**らせる、です。

まもなく夏休みに入り、子どもたちが戸外で過ごすことも増えると思います。ご家庭でも「**いかのおすし**」を確認していただければと思います。





花組：夏野菜がたくさんでき、見つけたり楽しく収穫したりしています。



風組：うまく流れるかな？ 斜面を利用して桶をつなげ、水を流します。



星組：カブトムシがたくさん成虫になり毎日触れたりお世話したりしています。

### 七夕に願いをこめて

7日(木)、年少組と年中・年長組とに分かれて、七夕集会を行いました。花組は初めての遊戯室での集会でした。織り姫と彦星の物語を、年中・年長組は職員劇で、年少組は人形劇で見せてもらい、お話を知ったり、織り姫と彦星が会えるといいなと思ったり・・・クラスに戻って星形ゼリーもいただきました。



短冊には様々な願いごとが書かれていました。「ケーキ屋さんになりたい」「警察になりたい」等のなりたいもの系、「友達と遊びたい」「なわとびができるようになりたい」等のやりたいこと系、年長になると、「みんながやりたいことができますように」「みんなが毎日幼稚園に来れますように」と、まるで担任目線のようなお願いごともありました。共通点は、「子どもたちは未来に希望をもっている」ということです。子どもたちの描く未来は明るく、夢の叶う未来なのです。そうでなければいけないと強く思いました。

折しも、その日の夕刻からの「やまぐち学園学校運営協議会では、幼小中一貫のコミュニティ・スクールとして取り組みたいことを協議し、そこで『こんなことをしてみたい』と前向きにやりたいことを話し合うことはとても楽しいことで元気が出る」と共感し合ったところでした。不安を抱くのではなく、希望をもって「先のことを考える」ことは、人を元気にしてくれるのですね。

保護者の方の短冊には、子どもたちが「元気に過ごせますように」、「楽しく過ごせるように」「コロナがなくなりますように」「笑顔で過ごせるように」等の願いがありました。いつの世も、健康で楽しく過ごすことは、親の(人々の)切なる願いなのだ実感しました。戦争もコロナも事件もなくなるといいですね。



それぞれの水遊び：花組は庭やデッキに小プールを並べて、風・星は大きいプールにクラスごとに入って、楽しんでいきます。梅雨明けが早かったので気持ちよく入っていますが、雷注意報が発令中の日もあり、何度か見送りました。

### 楽しいおまつりになりますように ～コロナ対策もよろしくお願いします～

14日(木)は3年ぶりの幼稚園まつりです。「子どもたちのために」「思い出に残るものを」という思いで、「ようちえんまつり実行委員会」が中心となっていろいろと準備を進めてくださいました。PTA会員の皆様にも、製作協力、ボランティア、コーナー運営など他方面からご協力いただき、ありがとうございます。当日、子どもたちの笑顔がたくさん見られるといいなと思います。

コロナを機に、保護者の皆様の負担軽減にもつながるようにと考え、お子さんの学年に応じて協力内容を変えたり、きょうだい関係に配慮したりと「全保護者の協力による」けれども、「同じように協力」ではなく、「できるように協力」と考えて準備を進めたつもりです。いろいろなお気づきやご意見もおありかと思えます。まつり終了後にアンケートを配付しますので、そちらへご記入ください。



楽しいおまつりにするために、コロナ対策へのご協力もよろしくお願いします。最近の感染者増加やBA.5の猛威をととても心配しているところです。しっかり対策を取りながら楽しみましょう。

回り方などを指定していて一見ややこしいですが、ご自分のところを理解しておいていただければうまくいくはず。配付物をよくお読みになってご参加ください。また、適時放送も行いますのでご協力ください。